

# 良子さんの ほっと一息ティータイム



## 足元にひろがる小宇宙

熊谷良子 vol.8

『ファール昆虫記』は、虫が好きな人だけでなく、苦手な人をも魅了したのではないだろうか。草むらや落ち葉の下には、虫たちや植物などの命の営みがあります。その精緻で不思議な躍動感にあふれる小宇宙を発見した二人の写真家を紹介します。一人目は昆虫写真絵本『栗林さんの虫めがね 発見』の栗林慧さん。栗林さんは、虫を驚かすことなく虫に近づき、「虫が見ている世界を写真にできないか」と「虫の目カメラ」「アリの目カメラ」を自分で作りました。アリの撮影の時は、栗林さんも腹ばいになりアリの目線と同じ地面から数mmの高さになって撮影します。アリの目には、カブトムシやカマキリは迫力のある巨大な“怪獣”に見え、草原はジャングルになり、それは、読者には絵本から突然カマキリががばっと現れるような臨場感を体験することになります。二人目はDVD『足元の小宇宙 生命を見つめる植物写真家』の埴沙萌（はに・しゃぼう）さん。次の世代に命を渡すツクシの孢子、キノコの孢子の幻想的な空中の舞や高性能マシンのように種を遠くに飛ばす植物をカメラは捉え、それが芽を出す瞬間は埴さんのレンズを通すと煌めく小宇宙が登場してくるようです。私たちの足元にひろがる小宇宙を思うとき、春の芽吹きは特別なものになるでしょう。

2023. 1

